

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	遊休農地の活用と、市田柿づくりの伝承
事業主体 (連絡先)	市田柿づくりをやらまい会
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	442,565 円 (うち支援金: 330,000 円)

事業内容

市田柿の認知度を高める活動として、柿の栽培から収穫までの体験イベントを実施し、市田柿(干し柿)づくりの方法を学ぶため、収穫した柿を使用し各家庭で干し柿作りを実施。

柿の栽培: 5月~10月

柿の収穫: 10月~11月

干し柿づくり: 10月~12月 (各家庭)

成り木責め1月



【柿収穫体験の様子】

【目標・ねらい】

事業効果

- ①体験会で、市田柿の説明や栽培に関する体験を行うことで、市田柿についての知識を広げることができた。また、柿を材料としたお菓子や干柿を提供し、さらに認知度を向上できた。
- ②消毒、収穫を実際に体験することで、柿栽培の方法を伝えることができた。
また、各家庭で市田柿を作ることで地域の特産物について知識を深めることができた。
- ③遊休農地を使用することで柿の管理が行われ、周りへの病気などが広がることを防ぐことができた。
さらに、落葉病などがで葉っぱが落ちてしまうなどを防ぐことができ景観を良くすることができた。

①市田柿の認知度向上

②市田柿の栽培方法を学ぶ

③遊休農地の活用と景観の向上

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・市田柿づくりへ参加者が約115名となり多くの方に栽培方法を伝えることができた。
- ・耕作放棄の柿の木(41本)を管理でき近隣への病気の発生を防止でき

今後の取り組み

今年度は柿の栽培方法を学ぶことが出来ました。令和4年度はさらに収穫量をあげる栽培方法を習得し、令和5年度からは生柿を収穫してからの干し柿作りの習得を目指します。今後、作業場や柿むき機械などを整備していきたいと考えています。さらに、渋柿を使用しての渋柿染めをなども計画したいと考えています。

また、地域の方以外に県外など都市部からの農作業体験を受け入れていけるように整備し、農業教育にも貢献していきたいと考えています。